

事業名 東京都水の科学館築造工事

施設の上部空間を有効利用した、都民に親しまれるPR施設

受賞機関 東京都水道局経営計画部企画調整課
東京都水道局経理部営繕課
東京都水道局建設部設計第一課

事業実施期間 平成6年4月28日～平成9年5月19日

事業費 4,000百万円

技術等の特徴と評価

水源の状況と将来、節水のお願い、震災時の応急給水など、水道への理解を深めるべく、給水所の上部空間を用いて、「参加体験型」「デモンストレーション型」手法を多く採用した水道PR施設を建設し、公共施設空間を有効利用しつつ市民の憩いの場を創造した点で評価される。

事業の概要と効果

本事業は、臨海副都心(レインボータウン)、に給水している有明給水所(配水池容量2,000m³)の上屋を有効活用し、都民に親しまれる水道PR施設を築造したものである。

当給水所は、ほとんどの施設は地下構造物であるが、震災や停電時の給水確保や配水ポンプ停止時のサージング防止を兼ねた緊急給水槽(300m³)をA.P.30mの高さに確保する必要があった。当給水所のG.L.は7m程度であり、緊急給水槽の高さは、この場所では建物だと地上4階に相当する。このため、地上1階から3階にかけ

ての上部空間の利用を検討した。

当給水所が、東京都の新しい副都心に位置づけられ、都民の関心の高いこと、また、水道局は水道利用者である都民から、常々PR不足を指摘されていることから、当給水所に都民向けの展示施設を開設した。

水に対して関心を抱き、楽しみながら水道事業に親しみと理解を持ってもらう場と位置づけて、以下の3つのテーマで水道事業を理解されるよう築造した。

- ・水の知識を広げるとともに水にかかわる楽しい体験
- ・水道に関する最新情報を提供
- ・水道事業の現状と未来への理解

そして、科学館全体を見学者が自分で直接触れて体験しながら学べる「参加体験型」や「デモンストレーション型」の手法を多く採用し、来館者の興味を高めたり、地下にある監視室、電気室、ポンプ室等の実物を見学しながら、受水、給水、水質管理、漏水防止等水道事業についての理解を深めるなど、展示と局施設の複合(合築)施設として特色をだしている。

効果として、水の科学館の入場者は、当初年間4万人程度を期待していたが、開館4か月で入場者数10万人を突破し、平成10年1月末でおよそ16万人の入場者があった。

特に、給水所の仕組みや水道事業の概要を理解してもらう「アクア・ツアー」は、説明員が付き添って案内し、給水所の説明を行いながら地下1階から3階まで実際に歩いて、映像・音響と実物の給水所の見学をするもので、給水所と展示施設の複合施設の利点を活かしている。

また、来場者へのアンケートでは、好評を得ている。

受賞賛助会員 戸田建設(株)東京支店



全景



水にかかわる体験状況